



「172のころ ～レンコン収穫～」

新年度が始まった頃に「レンコン畑作りたいね」と3歳児担任で言っていたことが現実になり、レンコン農家さんの協力もあって、園のビオトープにレンコン畑が出来ました。

子どもたちもビオトープに泥を入れたり、水やりをしたりとお世話を頑張りました。しかし、何と言ってもビオトープのレンコン畑ということ、素人の保育者2人がメインにお世話していること。本当にレンコンが出来ているのか気になってしょうがなく、レンコンの葉が枯れてから担任2人で掘ってみると、いい具合のレンコンが採れました。数日後に子どもたちも一緒にレンコン掘りをしました。ヌルヌルしてちょっと匂いがする泥に苦戦しながらも、感触を楽しんだり、泥の中からレンコンを見つける喜びを味わいながら、レンコン掘りを楽しんでいました。

泥だらけになりながら、楽しそうにレンコン掘りを楽しんでいる友だちに感化されたのか、汚れるのが苦手な遠巻きに見ていたHちゃんも気づけば顔も服も靴も汚れて夢中でレンコンを探していました。「私もやってみたい」とHちゃんの心が動いた瞬間だったんだと思います。

レンコンは一部しか掘らなかったのですが、なかなかの収穫でした。次の日にはライブキッチンで目の前で揚げてもらい、レンコンチップスの揚げたてを頂きました。子どもたちからは「おいしい!」「もっと食べたい!」「お母さんにも食べさせたい」などすてきな感想が聞かれました。

ワクワク・ドキドキしながらやってみたい、やろうと思って取り組んでいる子どもたちの瞳はキラキラして積極的に動いています。これからも子どもたちの興味・関心を引き出し、「やる気」「主体性」が自然と身につくように保育者も一緒に活動を楽しみたいと思います。



みんなの前で大好きな人から「大好きだよ」と伝えてもらうこと、きゅーと抱きしめてもらうこと、そんな言葉は  
 これからの子どもたちにとってどんなに大きな力となるのでしょう。これから先、どんなことがあっても「大丈夫」と思える、  
 何より強くなる「おまもり..」になれます。あふれるほどの愛を伝えるおうちの方、大切な人から力強く抱きしめらる  
 子どもたち、それを見守るまわりの保護者様達の温かい眼差し...。後に思えば「優しい時間」となりました。  
 さくらぐみさんにとっては残り5ヶ月の園生活。みんなも一人ひとりを変わらず愛していこうと改めて思った秋の一日でした。

先日、年長さんのピクニックデイが開催されました。役員  
 さんに考えて頂いたワクワクが溢れるお祭りや写真のブー  
 ス、キッチンからはサイエンスフルーツポンチやアイスク  
 リーム、パステルやサンドアート、手形アートのワークショッ  
 プなどの催しを、親子でゆっくりと楽しんで頂きました。

そしてフィナーレとして行われた我が子へのラブメッセー  
 ジタイム。それは築山からお子様と共に保護者様から想いを  
 伝える時間。生まれたときのこと。我が子のいいところ。小  
 学校への少しの不安。その内容は様々で、しかし全て心を打  
 つものでした。なぜ、こんなに心が揺さぶられたのか。それは、  
 小さな不安のなかで今日まで子育てをしてきたことが保護者  
 様の仕草、声、表情から伝わってきたから。みんな、手探り  
 で得た答えらしきものを日々重ねながら、我が子を育ててい  
 るということが伝わってきたから。さらに、それでも尚、そ  
 こには揺るぎない愛があることを感じられたから。

私たちは皆、子育ての初心者です。ですから、完璧ではなく、  
 未熟で当然。できないこと、不安になること、迷うことがあ  
 って当然。だからこそ安心できる場所や人との繋がりが大切な  
 のかもしれません。

最後に、私が最も引きつけられた姿。それは、喧噪の中、  
 いつの間にか大きくなった我が子を静かに抱っこしたまま佇  
 お保護者様の姿でした。二人の間には特に交わされる会話は  
 なく、ただ静かにお互いの温度を感じている時間。本当に美  
 しかった。

武雄こども園の子どもたちと保護者様が、静かで温かな温  
 度に、これからも、いつまでも包まれますように。

